

らいふ通信 ぶちらいふ

2008.秋
Vol.13

らいふホームページ <http://life.daikatsu-k.co.jp/>
らいふ通信 <http://green.ap.teacup.com/lifekaigo/>



らいふ萩園
らいふ松林
らいふ神明

初の1年ぐらいいは週2〜3日の通所と月1〜2回のシヨーステイといったローテーションを組んでいたが、昨年後半からは足腰も弱り完全な入所状態で、主治医の先生に持病の心臓、腎臓病の治療のため定期的な往診をお願いしていた。



故関米子様

今年6月26日未明、母が老衰で旅立った。95才だった。一昨年11月、小規模多機能の介護施設ができることをきき、早速手続きをして12月1日「らいふ松林」の開設と同時に入所。

今年6月26日未明、母が老衰で旅立った。95才だった。一昨年11月、小規模多機能の介護施設ができることをきき、早速手続きをして12月1日「らいふ松林」の開設と同時に入所。

らいふインタビュー
甲山方也さん



6月にお母さまを看取られた甲山さんは、介護保険制度にも一家言をお持ちの元ジャーナリスト。介護スタッフには父親のような厳しさを保持して指導して頂きました。今回、インタビューというかたちでなく、直接寄稿していただきました。

【特集】 看取り介護を考える 「暮らしたの場で最期を迎える」



光

介護ビジネスといわれているが、介護は決してビジネスではない。人と人とのふれあいの美しさが表現された瞬間だった。あの一輪の花は生涯忘れることはできない。主治医、施設、そして家族が三位一体となって取り組むことが、介護にとって是不可欠の条件であることを改めて考えさせられた母の最後でした。(甲山方也)



リビングにて皆さんで献花



編集後記



今回、らいふ松林の特集記事を紹介しましたが、寄稿して下さいましたご家族の甲山様、本当にありがとうございました。編集部の私は、以前通われていたデイサービス時代から関米子さんを知っていたこともあり特別な思いで寄稿を読ませていただきました。今年も残すところ1ヶ月をきりました。編集部では毎月挿絵をお願いしている「光」さんの描かれた絵をまとめて、2009年のカレンダーを作成しました。若干でしたら差し上げることが出来ますので編集部までお問い合わせください。(次号は1月新春号を発行しますので皆様の投稿をお待ちしています。)



らいふ萩園
デイサービス
居宅介護支援センター
〒253-0071 茅ヶ崎市萩園2822-1
TEL0467-89-5277

らいふ松林
小規模多機能型居宅介護
〒253-0017 茅ヶ崎市松林2-6-34
TEL0467-54-8591

らいふ神明
小規模多機能型居宅介護
グループホーム
〒251-0021 藤沢市鵜沼神明2-12-17
TEL0466-21-7893

らいふ通信「ぶちらいふ」秋号Vol.13
2008年11月15日(季刊発行)
編集/ぶちらいふ編集部

神奈川県茅ヶ崎市萩園 2822-1
〒253-0071 TEL0467-55-5102
発行/大勝建設株式会社介護事業本部

茅ヶ崎の道4

今まで3回は東西に走る道を紹介しましたので、今回は南北の道を紹介いたします。

①ラチエン通り

サザンの曲「ラチエン通りのシスター」でもおなじみです。昭和の初め、この通りに別荘を持っていたドイツ人の貿易商のラチエン氏にちなみつけられました。宇宙飛行士の土井さんはその遠縁に当たるそうです。野口さんとともに、二人の宇宙飛行士が名誉市民に選ばれたのは記憶に新しいところです。



開高健記念館



高砂緑地



茅ヶ崎館

②雄三通り

駅前から134号線へ伸びるこの道の沿線に上原謙、加山雄三親子が住んでいました。地元のお年寄りは今でも、上原謙通りと呼ぶ人もいます。邸宅跡

民の憩いの場所になっています。海のそばには、野球場やテニスコートがあり公園になっています。この野球場でサザンのコンサートが開かれてからもう、八年になります。そのサザン

③高砂通り

はマンションが建っています。「たかすな」通りといえます。「たかさこ」ではありません。この辺は海からの風が強く吹きつけ、高い砂丘のようになっています。

もデビュー30周年を期して、今年で活動を一時中止するのは残念です。

④サザン通り

そのサザンの桑田少年が小・中学校に通った道が町興しと結びついて、サザン通りが生まれました。この道の歩道には青いペイントがしてありますので、道に迷ったときは、すぐわかります。沿線には前号で紹介した小津監映画館ゆかりの茅ヶ崎館があります。明治時代からの建物で今でも色々なイベントが開かれています。

⑤左富士通り

南湖の西浜高校から一国の左富士のスポットまでの道です。橋の上から見る左富士は江戸の広重の時代から変わっていないのでしょうか。道の両側に広がる浜見平の団地は、昭和39年、東京オリンピックのとき人居が始まりました。40年を過ぎて、今、北側から建て替えが始まっています。昭和の風景が又ひとつ消えています。

●南北の道は、素直な愛称のついた道が市内には、まだまだたくさんありますが割愛して、次回は「茅ヶ崎ガイド総集編」です。

らいつで看取り介護をさせていただいた、
関米子様の最後のご様子を、松林所長小室が報告いたします。

病気や障害があっても、住み慣れた家や 地域で暮らし続けたい。

この気持ちをを支えるのが介護保険の精神です。
そこから考え出される、安心して暮らしていける場所とは
どのような場所でしょうか。

私たちは日常の中で当たり
前の事として看取り介護が
行われるところ、つまり暮
らしの中で最期を迎えるこ
とが出来るところだと考え
ています。平成26年6月20
日未明、関 米子様（享年
95歳）が静かにゆっくりと
息を引き取られました。場
所は、小規模多機
能型住宅介護
らいつ松林 施設で
の看取り介護が半
年間続いた後のこ
とでした。米子さ
ん（皆さんから米
子さんと親しみを
込めて呼ばれてい
ました）とは平成
18年12月の開設以
来のお付き合い、
皆さんからとて



も慕われた愛らしい性
格の持ち主でした。平
成19年12月に心不全が
悪化され主治医からは
終末期であることを告
げられて、ご家族・主
治医・施設の話し合い
の中で看取り介護を施
設で行うことが決められま



した。施
設として
是非米子
さんの看
取り介護
をさせて
欲しいと
お願いし
たところ
ご家族の
甲山さん
（介護に
対する先

療の考えをお持ちのすばら
しい先生です）の全面的な
支援のもと介護スタッフも
安心して看取り介護に取り
組めました。それから半年
間、米子さん
の人生最期の
時間を一緒に
過ごす誇りを
胸に介護ス
タッフは様々
なケアの取り
組みを必死に
行いました。

↓ 地

↑ 天



いよいよの 때가近づいた日
の夜は介護スタッフ全員自然
と次にやるべきことを理解し
行動しました。明け方、亡く
なられてすぐに金先生（24時
間どんな時でも駆けつけてく
れました）に死亡確認しても
らい、女性介護スタッフが死
後処置と最期のお化粧をさせ
てもらいまし
た。通いの
方々がそろつ
た午前10時過
ぎから、おひ
とりおひとり



食事はゼリー・トロミ食
訪問してお別れをして頂きました

米子さんの眠る部屋へお別れ
を告げに訪問しました（皆さ
ん当たり前のように快く訪問
して頂きました）。午前11
時 ホールで皆さんから米子
さんに献花があり正面玄関か
ら斎場へ出発されました。皆
さんの「死」に対する厳粛な
思いが伝わり、「死」は決し



献花で最期のお別れ

て忌み嫌う事柄ではないこと
を深く学ばせて頂きました。
安心して暮らしていける場所と
は、最期は正面玄関から見送り
がされる場所であると思いま
す。私たちの理念「心を添え
て、ともに生きる」のもとその
ような場所づくりを目指してい
きたいと思えます。



光

Medical check 11 口腔ケア研修会



仕事を終えて、研修に集
まったスタッフたち。

10月1日、ら
いふ萩園では
「食べるこ
と」をおし
ていつまでも
元気にデイ
サービスへ来
ていただきた
いと、口腔ケ
アの研修会を
開きました。
講師には、高
齢者や障害者
施設へ積極的
に入り、いつまでも口から食べら
れるよう実践されている村田歯科
医院の院長・黒岩先生と、横須賀
の高齢者施設で管理栄養士として
従事している宮津さんに来ていた
だきました。
一杯の水を飲むにも、意識レベルや
唇の周辺の筋肉、舌の運動など様々
な機能を用いていることが具体的に
理解できました。また、口からおい
しく食べるには、食べられる口に改
善する努力と、ゼリー状にしたり
ペースト状にしたり食形態をその人
に合わせていかなければならないこ
となど学びました。
お二人は1週間くらい前に、北海
道からみえた言語聴覚士の源間さ
んを連れてボランティアに来てく
ださったので、食事場面や口腔ケ
アの具体的な相談もできました。
らいつ萩園では、今後も継続的に
黒岩先生や宮津さんにボランティア
アをお願いしながら、食事が摂れず
脱水・低栄養
になる恐れが
ある方のご相
談をお受けす
ることにしま
した。
ご家族からも
何か不安に感
じていること
があれば、デ
イサービスス
タッフにご相
談ください。



お客様のご家族も一緒
に、平塚までコスモス
畑を見に出かけてきま
した。

神明



秋のお出かけ コスモス畑

らいつ 歳時記 event

らいつ萩園も10月25日平塚の馬
入ふれあい公園にコスモスを摘
みに出かけました。



萩園

敬老祭



今年もスタッフの二人羽織な
どさまざまな余興で盛り上げ
た敬老祭。
百歳の仁多見さんを筆頭に、
らいつ萩園の御長寿がくす玉
を割ってくださいました。

